


# STOP! THE YANBA DAM



## CONTENTS

- ◆ いよいよ最高裁へ! ……廣瀬理夫
- ◆ ハッ場ダム予定地は、今 ……渡辺洋子
- ◆ ハッ場ダムには危険がいっぱい ……武笠紀子
- ◆ 学習会「国土強靱化でどうなる? 経済と環境」レポート ……大野ひろみ
- ◆ まだまだ足りない?! いつ止めるの? 過大な水需要予測 ……入江晶子
- ◆ 沖 大幹氏講演会より ……坂倉敏雅
- ◆ 水道ピンチ、全国で大幅値上げ相次ぐ。千葉県は? ……村越啓雄
- ◆ 本の紹介/お知らせ/編集後記

vol20

## ハッ場ダムをストップさせる千葉の会

代 表 : 中村春子・村越啓雄

住 所 : 〒285-0825 千葉県佐倉市江原台2-5-29

TEL/FAX: 043-486-1363

E-mail: yanbachiba@gmail.com

ウェブ: <http://yanbachiba.blog102.fc2.com/>

第20号 2014年8月28日発行

●会費納入のお願い (一口 1000 円/年)  
会費振込先: 00120-5-426489

## いよいよ最高裁へ

弁護士 廣瀬理夫

### ① 最悪な高裁判決

千葉の高裁判決は中身の無い結論ありきの最悪の判決でした。

昨年10月、法廷を弁護団員、原告の人々、応援の人々など多くの人で満員にして判決に聞き入ったのですが、簡単な結論のみを早口で小声で話して終わりました。その後、判決文の正本を受領し、弁護団で検討しましたが、検討することに憤りが強くなりました。

内容は、

- ①水余りの現状で、千葉県が予想している水需要は不合理であるとの主張に対して、「千葉県などは非常時においても、住民の生活に著しい支障を及ぼすことのないよう、給水の量的安定性の確保が求められている」ので「施設の条件により余裕を見込み、これに見合った水利権を確保しておくことが当然に要請される」から、利水の必要がある。
- ②治水の面からもその必要性がないとの主張に対して、千葉県の支出行為が違法になったり、差し止めを求めることができるのは、国の決めた政策(費用請求など)が「重大かつ明白な違法ないし瑕疵がある」場合でなければならず、そのような場合でなければ千葉県は国の請求に従う義務がある。
- ③「千葉県は台風による利根川本流などの洪水により、再三にわたり床上浸水などの被害を受けている」からハッ場ダムの洪水調節によって洪水被害を防止することが出来るなら特別の利益(著しく利益を受ける)があることになる。
- ④そして、本件では、日本学術会議の結論も、ハッ場ダムによって洪水調節機能により千葉県にとっても洪水防止に有効であることを認めている。
- ⑤よって、ハッ場ダムは必要である。という内容でした。

### ② いよいよ最後の舞台、最高裁へ

この高裁判決に対して、当然なことながらすぐに最高裁へ上告及び上告受理申立をしました。

こんな高裁判決を認めては、今後の公共事業はやりたい放題になってしまいます。千葉事件の前に判決(これも不当判決)がでた東京事件についても最高裁へ舞台を移しています。

既に、東京事件では専門学者の意見を参考にしながら3通の重要書面を提出し、最高裁に逆転判決を出すよう求めています。

千葉もそれに協力しながら、この不当判決を覆すべく努力しているところです。

### ③ 現場では

この間、現地では、一方で本体工事の入札が実施されるなどしていますが、他方で代替地の土壌汚染問題など新たな重要問題が発生しています。

# ハッ場ダム予定地は、今

## 本体準備工事

吾妻渓谷ではハッ場ダムの本体準備工事を理由に、観光スポットであった滝見橋が3月25日に閉鎖されて以来、重機の音が谷間に響き渡るようになりました。

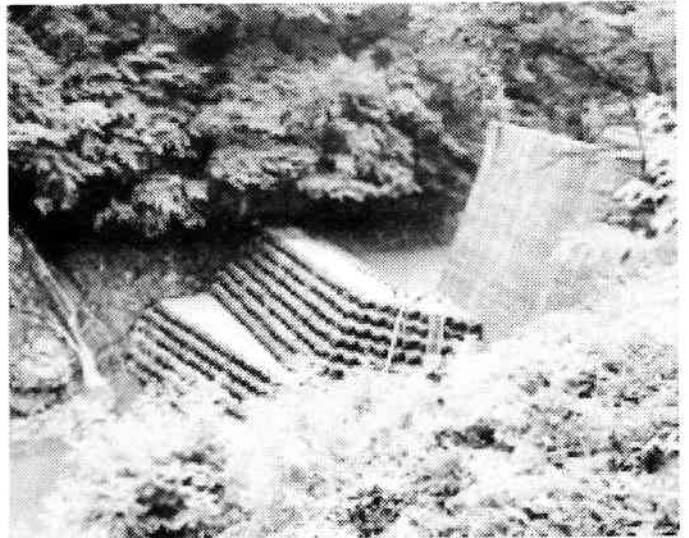
4月には滝見橋の直下に堰が造られ、流れを遮られた吾妻川の水は、2009年に完成した仮排水トンネルを流れるようになりました。干上がった河床にコンクリートが敷かれ、いよいよ高さ29メートルの小ダムを造る仮締切工事が本格化するかと思われた6月、梅雨の増水によって土と石でできた堰が流され、吾妻川の流れは再び蘇りました。

7月末、長い梅雨が終わると、新たな堰（写真右）が造られ始めました。今度は台風に備え、コンクリート製で最初のより頑丈そうです。もっとも、堰ができただけで、7月末に完成するはずだった小ダムはまだ姿を見せていません。

## 不正な本体工事入札手続き

渓谷両岸の掘削や道路工事など、他の本体準備工事でも遅れています。けれども、今秋にも本体工事着手という国交省関東地方整備局の方針は変わらず、6月には太田国交大臣が現地で順調な事業の進捗をアピールし、8月7日に清水建設JVの落札が発表されました。

本体工事の入札に関しては、本命と言われてきた鹿島建設が3月に東京湾トンネル工事で死亡事故を起こして入札参加資格を失うという番狂わせがありました。しかし鹿島の技術がほしい関東地方整備局は、入札手続きの重大な節目である「技術対話」に鹿島を参加させるという不正を犯しました。鹿島とJVを組んでいた清水建設がJVの組み替えを行うことで本体工事を落札しましたが、本体工事では入札



一度流されたあと、新たに作られた堰

参加資格を失った鹿島の技術が活かされることになります。こうした不正な入札手続きは、本体工事に暗い影を投げかけることは必定です。

## 有害な鉄鋼スラグ

8月5日には、毎日新聞がハッ場ダム事業で有害資材（環境基準を超えるフッ素等を含む鉄鋼スラグ）が使用されているという衝撃的なスクープを一面トップで報じました。

川原湯温泉の新駅周辺、移転代替地の造成にも、この鉄鋼スラグが大量に使用されています。大同特殊鋼の鉄鋼スラグは、有毒であると同時に、水を含むとふくらむ性質があります。鉄道利用者や住民の安全性を考えれば、根本的な対策が必要ですが、関東地方整備局は「調査中」として、窮地を乗り切る方策を検討しているかに見えます。

ダム事業が続く限り、次から次へと問題が浮上し、“ハッ場ダム”という名のブラックホールに税金が吸い込まれてゆくのではないのでしょうか。

ハッ場あしたの会事務局長 渡辺洋子

# ハツ場ダムには危険がいっぱい！ くらし・自然・文化財を大切に！

7月15日（火）にハツ場ダムを考える1都5県議会議員の会の現地視察に参加して、現状を見てきました。

いったんは中止が決まりながら、建設派の激しい突き上げに国交省河川局のメンツも絡み、形式だけの非科学的検証のあげく建設再開が決まったハツ場ダムです。

首都圏では既に水余りで水の必要性はなく、治水の効果もほとんどない上に、自然破壊と地滑りの危険が予測されています。

昭和の雰囲気を残して人気を集めていた川原湯温泉街には、宿が一軒残るのみで荒れ果てていて、王湯（共同浴場）も6月に移転。泉質日本一の温泉が虚しく流れ出していました。



鉄道の付け替え工事が進み、川原湯温泉駅の新駅舎が出来ていて10月に開業予定だそうです。しかし、駅周辺の整備と駅へのアクセス道路は工事の真っ最中。間に合うのか、疑問です。

住宅と温泉宿は大方は代替地に移転しましたが、赤土むきだしの更地と工事中の道路が目立ち、長引く工事に住民の流出や廃業が続いています。

代替地には点々と建物が建ち、新しい「王湯」もぽつんと建っていました。また最近になって、代替地の埋め立てに、六価クロム等が含まれている有害スラグが使われていることが発覚し、問題化しつつあるそうです。



地滑りの証拠はあちこちで見られ、新たな盛土が滑ることの心配よりも、底地が滑る可能性と危険性のほうが高いそうです。さらに代替地の背後には山が迫り、土石流の起こる「沢」が広がっているのがよく分かりました。怖いです。

最後に、天明の浅間山大噴火で埋まった遺跡の発掘現場（西宮と東宮遺跡）で、埋蔵文化財調査担当者から江戸後期の庶民の暮らしの様子を説明していただきました。ダム水没地には日本のポンペイとも言われる遺跡群が広がっていました。

また、現在、住民が使っている国道を廃止するとの話が出てきて、道路の継続を要望。国は住民を排除し、道路交通法上は走れない巨大工事車を使おうというのが狙らしい。

（その後、国道は廃止された）。

ダム完成時期が不確実で、工事期間の延長で建設費（すでに予算の9割を使っているが、本体は未着手）が再び増額になるのを国は怖れて、急いでいると感じました。

今からでも充分間に合います。本体工事は止めて、ダム湖ではなく、温泉と吾妻溪谷と遺跡で観光産業を発展できると思いました。

（武笠紀子）

## ◆ 狂気の沙汰の計画

東日本大震災のあと、自民党は「防災・減災」を名目に、公共事業推進の旗を鮮明に掲げ始めた。政権奪取後は、10年間でなんと200兆円もの公共事業予算を日本列島にばら撒く計画を立て、ブルドーザーを走らせている。

八ッ場ダムを無駄な公共事業の典型として、私たちは糾弾してきたが、今後ダムだけでなく、空港、道路、橋梁などが、タヌキやキツネしか通らない場所に作られる可能性が出てきた。これはまさしく狂気の沙汰、「国土狂人化計画」だ！

そこで、八ッ場ダム反対運動で常に私たちの力強い味方となってくれているまさのあつこさんを講師に迎え、4月17日、学習会「国土強靱化でどうなる？ 経済と環境」を開いた。

## ◆ 海を覆い尽くすコンクリートの壁

まさのさんはまず、安倍政権の目論む公共事業計画を示した日本地図を披露。度肝を抜かれたのは、東北から千葉県までぐるりと走る太い線。



## まさのあつこさんのプロフィール



ジャーナリスト。  
 河川、環境、住民参加、情報公開、原発事故などに、鋭い視点で切り込む。  
 「週刊金曜日」などで執筆中。  
 東京工業大学大学院総合理工学研究科博士課程修了。  
 主な著書：『水資源開発促進法立法と公共事業』築地書館

なんと、スーパー防潮堤である。国は本気で東北から千葉まで、巨大防潮堤で取り囲もうとしているのだ！

海と住民を遮断することで、自然破壊だけでなく、海に対する人間の五感をも崩壊させるスーパー「愚の骨頂」堤である。まさに、「角を矯めて牛を殺す」を地で行っているのではないか。

また、点線は言わずと知れたリニア新幹線。これまた、土中深く地下水系をぶった切って自然を破壊し、地震大国の認識もないがしろにした神をも恐れぬ所業である。

## ◆ 借金も狂人化！

まさのさんは、こんなにインフラ整備を進めていけば、今に日本は借金で首が回らなくなると指摘。すでに1000兆円もの借金がある日本。将来世代に莫大な借金を負わせることで、子どもや孫たちが幸福な生活を送るための財源を奪っているのではないか。

土木事業で国を富ませ、集団的自衛権で国を強くする。これが安倍首相のめざす「富国強兵」。こんな首相の妄想に付き合っているのはトンデモナイことになる。

まさのさんはこう締めくくった。「安倍政権の暴挙に対抗するためには、1に世論、2に世論！

ともかく正しい情報を広めていきましょう」

(大野博美)



# まだまだ水が足りない?! いつ止めるの? 過大な水需要予測

人口減少が進むなか、これからは「量から質へ」縮小社会への転換が求められます。ところが、「良きに計らえ」役人主導の森田県政では前例踏襲が当たり前。高度経済成長時代の政策を見直さず、相変わらず八ッ場ダムなど無駄な公共事業を推進しています。

## ■ 3年後に7万人増加?

八ッ場ダムや霞ヶ浦導水事業など新規水源開発を進める根拠となっているのは、人口増加をベースとした千葉県水需要予測。県は人口のピークを2017年とし、626万2千人まで増えると推計しています。ところが、実際は2010年をピークに人口減少に転じ、

現在は619万5千人。3年後に7万人増える要因も明らかではありません。

一方、複数のシンクタンクによると、八ッ場ダム完成予定の2019年度末、千葉県の人口は612万2千人と推計しています。どう見ても、ダムをつくるために過大予測していると言わざるを得ません。

## ■ 知られざる未利用水

すでに千葉県には十分な保有水源（日量260万 $m^3$ ）があり、水は不足していません。県内の水余りの状況を調査したところ、5つの水道事業体で合計10万7千 $m^3$ /日の未利用水（水利権があるのに利用していない水）が存在することが判明。しかも、これら使われていない水の取得や管理費に520億円以上も支出していました。にもかかわらず、八ッ場ダムなど新規水源（日量33万 $m^3$ 強）を確保するために、今後、約500億円も投入しようとしています。

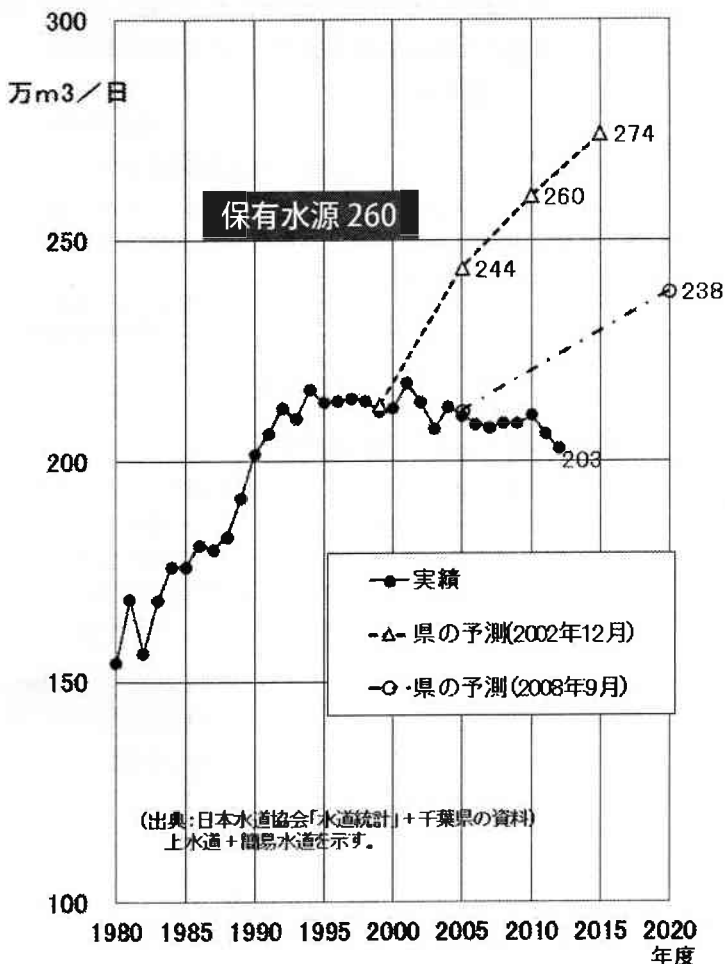
## ■ 脱ダム路線に切り替えよ!

このように事実に目を向けず、架空の予測に基づいてダム建設を推進する千葉県。一体いつまで敷かれたレールの上を走り続けるつもりなのでしょう? 次世代への負担を考えれば、あまりにも無責任です。人口減少・縮小社会では、「脱ダム」が常識と声をあげていきましょう!

(入江晶子)



千葉県・水道の一日最大給水量の実績と予測



(出展:日本水道協会「水道統計」+千葉県の資料) 上下水道+簡易水道を示す。  
\*八ッ場ダムは旧予測に基づいて進められている。

# 沖 大幹氏講演会「水危機 ほんとうの話」 7/26

(東京大学教授)

全水道会館にて

人は通常“事実(コト)”については争うことはできないが、その事実はいつも私たちに明らかにされているとは限らない。過去の歴史的時間の流れの中に埋もれているコトも無数にあるだろうし、未来には必ず明らかになるという保証もない。

一方“真実”は個々の人間の認識や価値判断にかかわる。究極において真実は個人に帰属する。だから何が真実かの論争においては、100人の参加があれば100の真実があり得るだろう。この事情は社会のすべての分野で起こり得る。東大教授沖大幹氏の講演「水危機 ほんとうの話」は講演者にとっての“ほんとうの話=真実”ということになる。プログラム後半の沖教授と嶋津暉之氏(水源開発問題全国連絡会共同代表)との対談は、“これからの水行政と河川行政”をひとつの焦点とし

てお二人の真実が、静かに切り結ぶ舞台となった。

講演会の中身に即してひとつだけ記しておきたいことがある。それは“リスクと安全”。リスクとは「～望ましくない事象を発生させる確率ないし期待損失」、一方安全とは「～受け入れられないリスクのないこと」あるいは「社会的合意にもとづく約束事」、従って安全評価には(社会的)価値判断が含まれる。ここで鍵になる社会的合意をどう形成するのかが問われ続ける。

(坂倉敏雅)

参考資料

①「水危機 ほんとうの話」(沖大幹著)新潮選書

②水源連ホームページ(嶋津暉之氏の問題提起)

<http://suigenren.jp/wp-content/uploads/2014/07/10187df4fdb25ef5833e4b07cb55de23.pdf>

## 水道ピンチ、全国で大幅値上げ相次ぐ 千葉県は?

朝日新聞(8月17日)は、埼玉県秩父市で水道料金17%アップという衝撃的な見出しを掲載した。値上げは、水戸市、岐阜市、呉市等と全国的な動向だ。値上げの理由は、浄水場や水道管の老朽化による設備費の増額。また、人口の減少やトイレや洗濯機などの節水技術が進み、一人あたりの使用量が減っていることからの収入の減が背景にある。

厚生労働省によると、全国の水道管の総距離は地球16周分(64万km)あり、法定耐用年数を超えた水道管が全体の8.5%もあるという。また、総務省は、「経営戦略」をたて、今後10年間の設備の「投資計画」と「財政計画」を策定すること、その際、浄水場や水道管を需要に見合った規模にするよう検討すること、などの通知を全国の自治体に出す予定だ。

千葉県の水道事業は23～27年度の5年間で201億円の収支差益を見込み、26年度は37億円の利益を見込むと公表した。しかし、計画は今後予想される大規模災害で、想定範囲を超えた被害への準備資金は計画していない。また、人口減少の現実を無視し、県内くまなく県水道の布設を目指すなど、バブル時代の計画を維持しているのでは計画は破たんし、水道料金の値上げに結びつく、と懸念される。

(村越啓雄)

## 本の紹介

### 戦後河川行政とダム開発

—利根川水系における治水・利水の構造転換

梶原健嗣著(ミネルヴァ書房)

シリーズ現代社会政策のフロンティア 8 7500円+税

ハッ場ダムをはじめとする不合理な多目的ダム事業がなぜ止まらないのか。その全容と構造に迫る待望の書です。ぜひ、ご購入や図書館への購入リクエストをお願いします。

## お知らせ

### ■ハッ場ダム住民訴訟10周年報告集会

12月14日(日)午後 全水道会館(JR水道橋)

講演会 講師 尾田栄章さん(元国土交通省河川局長。97年河川法改正に関わり、環境配慮や市民参加の道を開く。現在、福島県広野町で復興事業に携わる)

## 編集後記

ハッ場ダム建設は、計画から60年。多くの問題を抱えながら、国はこの秋に本体工事着工をめざしています。この無用の長物であるダム建設によって失われる貴重な吾妻渓谷と周辺の自然、次世代にはかりしれない負担を強いるハッ場ダムに、私たちはあくまで中止を求めて活動していきます。訴訟も10年経過。大詰めにきています。ご支援・ご協力をよくお願いいたします。

(中村春子)